

性感染症の “梅毒”^{ばいどく}から 自分と相手を守ろう

梅毒感染者が増加しています！*

無症状であったり、症状が出てもすぐ消えたりするケースもあるため、知らないうちに感染をひろげる可能性があります。

※国立感染症研究所:梅毒とは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/465-syphilis-info-141107.html> 2023/2/21参照

梅毒トレポネーマ(梅毒の原因菌)



直径0.1~0.2μm、長さ6~20μmのらせん状の細菌

お腹の赤ちゃんが感染することがあります

胎児が母体から感染する^{せんてんばいどく}先天梅毒では、死産、早産、新生児死亡、先天異常などが生じることがあります。

妊娠中に適切な治療を受けることが重要です。

梅毒は治療が可能な感染症です

心配な人はまずは**血液検査**を受けましょう

病院、クリニック、保健所などで検査が受けられます

地域によっては、保健所・検査室で無料・匿名で受けられる場合もあります。

詳しくは、お住まいの自治体のホームページをご確認ください。



一般社団法人
日本性感染症学会



厚生労働科学研究費補助金
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究

